



(第 29 号)
発行所 高松市清三二一
高松高等学校内
香川県高松高等学校玉翠会
責任者 大西大介
印刷所 石田印刷(株)

玉翠会新役員決定

新副会長に

形見重男氏

(高中49回 昭和19年卒)

二十年度 理事会・代議員会

平成二十年度玉翠会理事会は六月十四日(土)午後一時より高松高校会議室において四十名の出席にて開かれ、続いて代議員会は午後二時より五階玉翠会館ホールに百三十名の出席をもって開かれた。

理事会に続いて開かれた代議員会においては、開会に先立ち、昨年度以降事務局にご逝去の連絡をいただいた、故植田穰(うえたみのる)理事

ただいたが、東京など各支部からも出席、祝辞があり、支部同士の横のネットワークがより密に濃く温かく張り巡らされつつあることは喜ばしい。」と挨拶があった。

続いて今年度高松校并高校より転動してきた土居直哉校長より、新副会長の佐々木和昭教頭、柴田節教頭、清谷守之教頭の三名と菅原総務副部長を含めて職員紹介があり、「皆様の物心両面のご支援のおかげで生徒の学習環境が整備されている。進路意識を持たせるために諸先輩方の多大なご協力を得て、学校としても心強い。昨年度は甲子園教育基金にて、体育館前のトレーニング設備を更新させていただいた。昨秋には野球部が県で二位になり、鳴門での四国大会に出場することができ、その費用の一部にも

役員の変更については、事務局から、副会長の岩部隆氏(高中48回)が体調を崩され副会長を辞任、理事として留任の意向があり、理事では植田穰氏(43回)が逝去、九富彰三氏(53回)から理事

辞任の意向があった。新理事には、昨年度会長が提案した理事の増員も受け、形見重男氏(49回)、岩井宏之氏(53回)、牟禮明(めい)氏(高41年)、土居讓治氏(48年)、下地崇弘氏(60年)、楠瀬正司(まさし)氏(61年)が各学年から推薦されている旨報告があった。玉翠会会則第十一条には『会長および副会長は理事の互選による』とあり、新理事の承認後、会を中断して会長副会長を選出するための理事会を開き、その選考結果は久米房之

助理事より報告された。会長は大西大介氏(35年)留任、副会長は形見重男氏(49回)、新任、脇和子氏(晩翠19年)、植田實氏(42年)、加藤宏一郎氏(58年)、常谷忠克氏(38年)の四氏は副会長留任となった。新役員は別掲のとおりである。この後、退任される岩部副会長と九富理事のメッセージが読み上げられ、続いて形見新副会長からの挨拶があり、新理事の岩井氏、牟禮氏、土居氏、下地氏の挨拶と続いた。事務局からの連絡事項

は ○「会報・会費の納入について」玉翠会の収入源としてひとえに会費の納入をお願いしたい。七月の会報と一緒に振込用紙が届く。多くの会員の皆様からの会費をお願いしたい。昨年会費を納めておらずに振込用紙が届かない場合は、学校に電話頂くと郵送できる。 ○「名簿の編集・発行について」五年ごとの名簿の発行が七月予定である。皆様には住所等の照会、不明者の連絡等でご面倒をおかけしたことを

思う。ご協力に感謝したい。名簿についてお気づきお感じの点は事務局まで一報頂きたい。 ○「先輩講演会とGG Aの案内」(ただ今講師の方と日程を調整中。) 以上の連絡であった。 閉会のことばにて協和子副会長が当日朝の岩手・宮城内陸地震にふれ、高松の体育館が地域の避難場所になっている、もしもの時は皆で自分達と高松の復興にがんばりましょうとの言葉で、平成二十年度玉翠会代議員会を終了した。



故郷活性

玉翠会会長 大西大介

今年梅雨入りが早く、たうえに久しぶりの梅雨らしい梅雨となり、お陰で街路樹や校庭の木々の緑が鮮やかで、見た目も涼しそうですし実際に蒸し暑さの少ない過ごしやすいい日々が続いています。玉翠会会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

一年を振り返り、玉翠会の諸行事が滞りなく円滑に運営されましたことはひとえに会員の皆様方のご理解とご支援の賜であらうと、厚くお礼申し上げます。平成十五年に創立百周年を迎え、盛大にお祝いをしたのがついこの間のように感じていました。あれからはや五年が過ぎ、今年が創立百五周年ということになります。まことに月日の経つのは早く「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」を感じるところです。百十五年のうちに卒業生も五万名を超え、

のような訳にはいかず、最近の高松市は些か沈滞気味です。一昔前は若い高松高校卒業生が地元で活躍していたものですが、いま活躍するのは中高年ばかりです。高松高校卒業生の県外流出と高松市の沈滞には大いなる相関関係があるように思えます。親子で高松高校卒業はあっても、三代となる二十一年という長い目で見てみると変化し、進化をしております。今を知り、昔を偲ぶ事が出来るのも玉翠会の良さかも知れません。 高松高校の隆盛と歩調を合わせ高松市も元気であればよいのですが、そ

体も名門校への入学者数にある種売りにしているところがありますので卒業生の県外流出はやむを得ぬところではあります。まことに難しい事とは思いますが、何とか高松在住者のみで高松を活性化させるか或いは経験を積みある程度の年齢に達した卒業生のUターンを促し、協働するしかありません。幸い東京に住んでいる若い玉翠会員の中心から故郷をもう少し考えようとして「GRANDI」プロジェクト」を立ち上げ、香川県だけでなく四国へと輪を広げ、経産省や四国四県をも巻き込んだ活動を始めた人たちがいます。一方地元でも「故郷

初夏の眩しい陽差しの中、校庭の木々は、生命を謳歌するかのよう緑をひととき濃い色に変えています。 玉翠会会員の皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素から、母校発展のために御高配を賜り、温かい御理解や力強い御支援をいただいておりますことに対しまして、心より厚くお礼申し上げます。 本年四月の人事異動により、溝淵利博前校長が定年退職され、その後任を承ることにいたしました。高松高校は、私にとって生徒として三年間を過ごした学校であり、教員として十年間教壇に立った学校でもあります。かつ



高松高等学校長 土居直哉

「あいさつ」

て勤務していた頃は、昭和の旧校舎から平成の新校舎へと高松が変貌していく時期であり、移転した当初は、思い出多い校舎が姿を消していく一抹の寂しさもある一方で、近代的な新しい施設・設備の教育環境のもとでさらなる充実した取り組みを行うことができるという期待に胸を膨らませたことを覚えています。 この度の異動で、再び母校に勤務することになりましたが、十七年ぶりに間近に見る生徒諸君は、平成の校舎の中で「独立自主」、「文武両道」の精神をしっかりと受け継ぎ、学習や部活動、学校行事等に全力で取り組む活発な姿を見せてくれて、母校の発展のために、

微力ながら最善を尽くしてまいりますので、皆様方の温かいご指導の程よろしくお願い申し上げます。 古今集に「白露の色は一つをいかにして秋の木葉を千々に染むらん」という歌があります。かつて、新渡戸稲造はこの歌を引用して、白露を受けて様々に色づく秋の木葉のように一人一人の個性を開花させること、すなわち、「天賦の力を啓発すること」、「深く潜める無限の精神を開発すること」が教育者の使命であると述べました。まさに、この潜在的能力を生徒の自主性・自発性を促しながら最大限に伸ばすことが、本校の掲げる「学ぶ学校」の理念であります。 玉翠会のみならずの御発展と会員の皆様の御健勝、御活躍を心より祈念申し上げます。

玉 翠 会 役 員

本部

(会長) 大西 大介

(副会長) 形見 重男

(副会長) 脇 和子

(副会長) 榎田 實

(副会長) 加藤 宏一郎

(副会長) 常谷 忠克

(顧問) 岡野 美代子

(顧問) 多田野 久

支部

(東京玉翠会会長) 渡辺 修

(副会長) 三崎屋 義正

(副会長) 高田 トシ子

(副会長) 末包 昭彦

(副会長) 小島 豊子

(事務局) 岩崎 昭宏

(関西玉翠会会長) 樋口 順一

(副会長) 川西 艶子

(副会長) 斎藤 京子

(副会長) 岡 健

(副会長兼事務局) 田島 朋子

(顧問) 藤井 義弘

(顧問) 島田 清隆



大西会長



形見副会長



脇副会長



榎田副会長



加藤副会長



常谷副会長

(岡山玉翠会会長) 辻 孝夫

(副会長) 太田 武夫

(副会長) 河野 一郎

(副会長) 清水 育子

(事務局) 多田 讓治

(徳島玉翠会会長) 太田 房雄

(副会長) 塩田 洋

(副会長) 香川 典子

(副会長) 水口 裕之

(副会長兼事務局) 寺嶋 吉保

(顧問) 渡辺 恵子

(東海玉翠会会長) 木下 栄一郎

(副会長) 大山 貞雄

(副会長) 山田 久雄

(事務局) 高橋 正樹

高中部会

理事

丸山 修・加藤 達雄

岩部 隆・島山 武史

大竹 哲也・三宅 洋三

岩井 宏之・久米房之助

監事 荻淵 昭

晩翠部会

理事

伊藤 享・高木 敬子

尾形カズエ・喜岡美知子

谷本 文子・大久保和子

監事 安達恵美子

高高部会

理事

佐藤 壽子・太田 英章

今澤 暉子・大塚 裕康

藤本 稔・前谷 亮三

白井 治・大林 義和

谷森 勉・石原 英輝

豊田 章・徳永 孝明

小川 和彦・森田 紘一

代議員名簿

高中部会

森慶太郎・小西 行三

逸見正次郎・古川 静夫

小川 旭・上原 明正

加島 健・宮脇 安治

松島 良平・原内 平

松野 隆明・渡辺 弘

泉川 孝平・山田 幹夫
木内 正夫・渡邊 典雄
塩田 良弘・黒田 昌男
荒木 幹雄・清谷 圭一
増田 照夫・谷川 一典
河野 猛・水野 直樹

晩翠部会

筒井 薫・綾田 絹江
國宗 博子・杉山 清子
渡辺 綾子・鎌田 静子
香月 フミ・川西 美代
丸尾 眞子・中村美恵子
久米八寿子・森永 栄
平井 貞子・井上 敬子
藤田 幸子・伊藤喜美子
笠井 愛菜・和泉 和
山田 恵子・澤澤シヅ子
滝口 清子・山形 美自
岩井美智子・川瀬 信子
秋山多美子・荒木 聡子
上原美智子・加藤 鏡子
佐藤 恭子・神谷 順子
松田 郁子・西尾 信子
伊藤 悦子・矢野坂愛子
岡部 澄子・水野 綾子
石原 卿子・玉城 玲子

吉岡 哲朗・村井 恵子
中山 隆司・中村 秀明
牟禮 明・石橋真知子
中村合年威・三末 美園
中 博史・小島 英夫
間島 賢治・土居 讓治
石田 謙作・中村合百則
灘波 博司・中山 千晶
亀井 正好・小早川龍司
井本 康裕・森下 聖吏
稲田 耕一・下地 崇弘
楠瀬 正司・森川 輝男
野網 省平・中村 真夫
川東 孝俊

星川美智子・遠藤 忠知
合田 武・森田 幸子
日野 弓楓・岡崎 進
上野 文夫・八代 紀子
横井 俊子・木村大三郎
塚本 修・佐竹 睦子
加藤 祥子・高濱 孝
谷沢 一朗・笠井ミヤコ
谷本 明子・千切多一郎
鎌田 基志・岡田佳代子
飛田 久子・山内 康生
三宅加代子・北岡 保之
松尾久美子・朝岡太啓子
西井 純子・梶村 正俊
藤田 孝・大和田昭邦
尾崎 正澄・嶋 由利子
濱本貴美子・角田 朝則
中村美利子・真屋 正明
古市 恵子・香西 幸夫
高橋 博之・松山十恵子
平井 大資・海部 泰夫
土河 真代・川西 笑子
池田 紀治・上野 準一
堀家みどり・森 佐知子
小河 雄磨・井上 哲
糸瀬 敏恵・川田佐知子
笹島 幹豊・榊原 賢治
穴吹 恵美・神内 幾代
鎌田順一郎・関子 泰

飯間 康代・長嶋 佳子
嶋村 昭・檀原万里子
池田 恵子・松山 哲也
岡 永二・泉 暎美
織田 幹子・佐伯 典久
福田 安伸・久保 睦子
久松喜都子・修理 伸一
横山 忠則・大西 葉子
浜崎 泰子・神内 正信
和田 知文・稲本智世子
松原 剛・秋山夫佐子
中嶋 丕子・岡崎 勝一
増田 勝彦・溝川 淳子

岸田 光哉・吉川 正美
松下 節子・松延 健二
木下 雅子・藤野 勢津
齋藤 雅春・松岡 利佳
江見 壽建・石濱 英暢
松野 千珠・新谷 昭雄
高木 美穂・出射恵子
野口 宏一・門脇 禎人
川井 幸・風呂 貴子
宮脇 森・藤合良太郎
小野山千津・北島 桐子
前野 勝彦・坂本 耕一
久米寿美子・高橋 美香
前田恵美子・吉田 智
大倉 恵美・藤沢康一郎
小野 正博・富田 弘恵
田村 智子・西口 敦
篠原 隆司・柴島利江子
大門由美子・池田 康之

三好 啓介・木下 晶
三崎 恵奈・滝口 英城
富岡 貴美・井上菜々子
三好 享・千切耕一郎
前谷 季妙・世儀 賢一
井上 直人・西谷 睦子
岡田いずみ・西口 潤
神内 克知・石原 志保
河本 和美・南原加代子
森谷 拓朗・淵田 慎也
長井 綾子・桑村 英里
柴田 真幸・尾路 紘一
橋倉今日子・永井 幸子
加藤 集平・冨家 嘉顕
黒川あゆみ・鍋嶋 明子
小林 俊博・笹島 正豊
富田 唯・上春 美奈
陶山 真固・中村 茉莉
石井 裕世・納田 裕崇
尾崎 巨典・大川 悠介
賀須井悠莉・國分 綾
定通部会
松崎 善恵・玉木 勲
藤沢 康良・横峰 豊
河端 豊・野中 日勝
大麻 悦治・中山 敏男
住吉 榮司・松本 正義
頼富美穂子・佐々木九子
松本 修・大見 昌弘
菅澤 昭一・田淵 薫
川口 光子・塩田 政則
市原 武・香西 悦子
和木智香子・長尾美智子
沖田フサエ・武田 芳美
上田 昇・青木 和也
奥中 榮子・板東 真
池内 一治・香西 辰也

玉翠会から図書館への寄贈について

平成十九年度、東京玉翠会より寄付金十五万円があり、左記の図書を購入させていただきます。

- 『世界美術大全集 東洋編 第13巻〜第17巻・総索引』 小学館 約一〇二、〇〇〇円
『へ一冊でわかる』シリーズ 33巻『岩波書店』 四八、〇〇〇円

- 玉翠関係の寄贈図書
永井 勝雄氏 (昭和36年卒) 「小説・高松高校の男たち」 一部
丸山 茂樹氏 (昭和41年卒) 「陶匠濱田庄司 青春轍轡」 一部
真部満智子氏 (昭和38年卒) 「恋の前方後円墳」 二部
鎌野 咲氏 (昭和19年卒) 「続 咲くやこの花」 二部
森井 隆三氏 (昭和35年卒) 「コウモリとともに」 一部
田村 正之氏 (昭和55年卒) 「夏の光」 一部
脇 明子氏 (昭和41年卒) 「物語が生きる力を育てる」 一部

また、今年度六月末までに
本田 章子氏 (昭和33年卒) 「天頂 Zenith 本田章子歌集」 一部
の寄贈図書がありました。

部 会 だ ん り

東京

なんがでっきよんな What are you makin'?



▲昨年の総会幹事を務めた 58 年卒幹事団

初めて出席者が一〇〇名を超えて以来、毎年その水準をキープしております。昨年は、総会当日になって台風が接近し、交通機関の乱れもあって多くの欠席者が出たにもかかわらず九十九名が出席。今年も事前の集計で、ほぼ一〇〇名の動員が見込まれています。

東京玉翠会の第一回総会が開かれたのが一九八三(昭和五十八)年のことで、今年度の第二十六回総会の幹事を務める昭和五十九年卒の代は高次の三年生として在学中だったのですが、その一回目の出席者数は三九名だったそうです。そこから漸次参加者を増やし、スタートから四半世紀を経て毎年コンスタントに一〇〇名を動員するレベルに達しました。

玉翠会会員のみなさまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。東京玉翠会では、毎年七月の第二土曜日に総会を開催しておりますが、平成十七年に高野球部が七十二年ぶりに春の甲子園出場を果たした、いわゆる「センバツ効果」もあって

東京玉翠会では、卒業から二十五年目に当たる代がその年の総会の幹事を務めております。参加者の傾向として、学生時代はまだ横の連絡も取れており総会への出席人数も多いものの、やがて就職して仕事も忙しくなり興味も他に移って出席者数が減じてくるという現象が見られます。それが、卒業から二十五年目に総会幹事を務めることによって再結集され、幹事役を終えた翌年以降も参加を継続されているようで、こうした「掘り起こし」によって、年々々々、参加者が増えてきたものと推測されます。

このように一〇〇名を動員する高校の同窓会というのは、全国的に見ても極めて稀な例だと思っておりますが、今年度の総会幹事を務める五十九年卒幹事団は、この会をさらに活性化できないかと考えました。これまでの会は、学年ごとの同窓会が集積されて一同に会している感があったのですが、学年の枠を越えた「異世代間交流」を促進することによって、より面白い会にできるのでは? と思いついたのです。

具体的には、これまで年次順に並んでいたテーブルをシャッフルして、前後左右でまったく異なる世代のテーブル配置にする、個人々人につけていただくネームプレートに「卒業年」「氏名」以外に「職種・業種」「高校時代の部活」「趣味」「出身中学」等を書き込んでもらい、コミュニケーションツールとするというものを



フォークダンスを踊る出席者のみなさん

です。本年度の総会のテーマは「なんがでっきよんな What are you makin' ?」というもので、世代を越えた会員同士が「なんがでっきよんな?」と語り合っていたらどうかと考えた次第です。

また、東京玉翠会では総会以外でも、「ゴルフ同好会」「囲碁同好会」「菊池寛杯争奪麻雀愛好会」等々多くの同好会組織がありこちらも世代



壇上より挨拶をする 59 年卒幹事団 (中央・池田佳睦)

を越えた交流が既に盛んに行われております。詳しい活動内容は東京玉翠会のホームページ (<http://www.gyokusui.com/>) でも紹介されておりますので、ご覧になっていただけたらと思います。

末筆となりましたが、玉翠会会員のみなさまのますますのご発展とご健勝を祈念して、ご挨拶に代えさせていただきます。

池田佳睦 (昭和 59 年卒)

加者が腕を競い合いました。その後、二回のペースで開催しており、今年九月に第四回コンペを予定しています。

とは言え、まだまだ三組から四組のコンペです。いくつになっても楽しめるゴルフを通じて、横(同期)のつながりもちろんのこと、先輩後輩の縦の交流の場としても、さらに参加人数を増やしていきたいと思っております。

参加ご希望の方は左記までご連絡願います。

山口 潤 (平成六年卒) junjun00@yahoo.co.jp
藤田和久 (平成六年卒) kazuhisa.fujita@prudenial.co.jp

次は、軽文学サークル

文化祭やるげなぞ〜なんとなー!

関西

暑気日ごとに募る今日この頃ですが、玉翠会の皆様にはますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

例年、関西玉翠会では秋に総会を開催しています。昨年は十一月十日に全日空ホテル大阪にて、約三百三十人の出席者を数え盛会裡に終わりました。

樋口新会長



た。この席上、現樋口会長、岡副会長の就任が正式に決議されましたことをご報告申し上げます。

「文化祭やるげなぞ〜なんとなー!」でした。高次の文化祭のために制作された北斎の壁画を会場正面に飾り付け、その他高から運んできた作品などの展示もあり、さながら文化祭が大阪にやってきました、という感じの総会になりました。

さて、今年関西玉翠会は十五周年を迎えました。昭和三十八年に結成され



2007年 関西玉翠会 総会



▲総会バックの北斎は 高文化祭での 2-1-5 の大作

た玉翠会京阪神支部は、平成六年に名称を現在の関西玉翠会に改め、その第一回総会が同年十一月に開催されました。その後、昨年の第十四回まで

歴史を積み重ね、今秋には第十五回を数えることになりました。

我々昭和五十二年卒が主幹事を務める今年の総会は、十月十八日にホテ

ル大阪ベイタワーで開催予定です。テーマは「咲かそう!青春の花」としました。節目の年である今年、高在学中からの青春の思い出を一人ひとりに振り返っていただくという趣旨です。

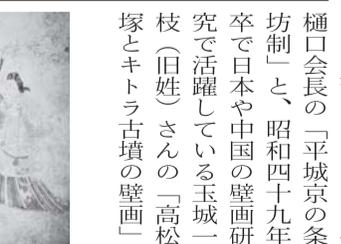
また、節目という意味では、今年四月二日に関西玉翠会晩翠部会が最後の代議員会を開き、席上同部会の「終会」が決議されました。

ところで、最近関西玉翠会では、同好の士による活動がジワジワと実績を上げつつあります。最



後に、ゴルフ同好会と軽文学サークルの活動状況をご紹介します。

まずは、ゴルフ同好会です。藤川衛会長(昭和三十四年卒)の下、結成された同好会は、昨年四月に記念すべき第一回コンペを高槻カントリークラブにて開催し、昭和三十四年卒から平成六年卒まで老若男女十一人の参



です。この項は、同サークル主筆の國友美信さん(昭和四十九年卒)に執筆いただきました。

関西玉翠会では卒業三十一年目と三十年目の会員が年次幹事団になって、秋の総会を担当する習わしになっています。昨夏、大役を果たして少しさびしい昭和四十九年卒と五十年卒に総会準備で頑張って舞いの五十二年卒を加えて、文芸サークル第一号の「軽文学サークル」を発足させました。

関西は、歴史と古典の舞台の宝庫。キックオフ会合は猛暑の七月二十九日に奈良ロイヤルホテルで行いました。千三百年前の呼び方は平城京(京五条二坊四坪)かつては唐招提寺の境内)が住所の(いただいた名刺にはそう書いておられます)樋口会長の「平城京の条坊制」と、昭和四十九年卒で日本や中国の壁画研究で活躍している玉城一枝(旧姓)さんの「高松塚とキトラ古墳の壁画」



の講演を聴いて平城京の魅力と、壁画を描いた絵師の性格まで推測する考古学の面白さを勉強しました後、炎天下を平城宮址まで歩き、いにしえの大和の国に想いを寄せました。

これからは、色々な顔を持った関西のあちこちを訪ねて、文学を肴に交流を深めていこうと目論んでおります。奈良の講演の内容は小冊子(非売品)にまとめ昨年十一月の総会で、参加の皆様にお配りさせていただきました。もしよろしければメールアドレスを連絡くださいば原稿(PDF)を送らせていただきます。

(記・昭和四十九年卒國友美信 宇治市在住) kunitomo@yahoo.co.jp

末筆になりましたが、全国の玉翠会会員の皆さまのますますのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

塩田昭弘 (昭和 52 年卒)

玉 翠 会 報

岡山

玉翠会のみなさまには、ご健勝にてご活躍のことと存じます。今年の夏も猛暑になるのでしょうか、五月初めには岡山でもはや三十一・四℃の真夏日を記録しました。五月末には四国が例年より一週間も早い梅雨入りとなり、中国地方は関東・東海よりもかなり遅れての梅雨入り宣言でした。

さて、岡山玉翠会総会は、例年十月のいずれかの日曜日に、その準備会を兼ねたその年の最初の役員会を一月に開催しています。昨年度第二十九回岡山玉翠会総会を平成十九年十月二十一日(日)午後三時三十分からアーコホテル岡山で開催し、

恩師として、溝利博校長先生、岡崎仁一先生、齋藤祥子先生に、来賓として、真鍋武紀香川県知事、太田房雄徳島玉翠会会長に、本部からは大西大介会長にそれぞれご出席いただきました。総会では、溝利校長先生には、高生生の進学・クラブ活動状況など、真鍋香川県知事には、香川県内の行事予定など、また大西会長には各玉翠会支部の状況や高生OBの地元へのUターン促進などをお話いただきました。岡山県は香川県の真向かいで、瀬戸大橋が繋がっており、テレビなどのメディアも両県のニュースを報道していますが、高生の情報としては耳新しくかつ貴重なものです。

今年の五月の役員会で

は、今年度の総会が第三十回という節目を迎えることから、例年とは違う企画をとるという意見も出ています。岡山玉翠会会員は現在三〇〇余名(もつと多くの出身者がいると思われ)ですが、例年の総会に出席していただけの会員は四〇〇五〇人程度、少しずつ高齢化が進んでいることは否定できず、今後はより若い人たちにも出席していただきたいところ。若い年代ほど県外への異動とともに県内への異動も多いはずですが、個人情報保護の問題など、その動向が把握できていないのが現状です。聞くところにより、本年四月に高生から岡山県内の大学に進学した人は、岡山大学をはじめ計十九人と聞いています。岡山県

には、玉翠会以外に、香川県出身者による「岡山香川県人会」や、高生出身で岡山大学医学部卒業生及び在医学部生による「玉藻会」もあり、それぞれの会の連携も望まれるところ。岡山玉翠会事務局では、毎年三月と九月に「岡山玉翠会だより」を発行しています。会員の寄稿や近況などを報告していただくとともに、九月には総会案内を兼ねた記事を載せ、三月には前年の総会の模様を伝えています。ちなみに今年三月の五十三号には、ノートルダム清心女子大学教授 脇明子先生(昭和四十一年卒)の「岡山で学んだ『子ども』という視点」と岡山大学大学院教授 中村良平先生(昭和四十六年卒)の「瀬戸大橋二十年」の

ご寄稿をいただきました。県外からのご寄稿も大歓迎です。今年の岡山玉翠会総会

は、平成二十年十月五日(日)午後三時三十分から、昨年同様アーコホテル岡山で開催予定です。



▲第29回岡山玉翠会総会

東海

玉翠会会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

東海玉翠会は平成二十年五月十日(土)に名鉄グランドホテルで第二回総会を開催しました。設立総会と同数の四十二名が参加し、来賓として、土居校長・大西玉翠会会長並びに各支部の皆様にもご出席いただき、笑いの絶えない和やかな総会となりました。懇親会の席上、高松高校放送部が製作された高校紹介のDVDや関西玉翠会が昨年製作された文化祭のスライドをお借りして放映しましたが、皆さん、昔の懐かしい映像や現役の皆さんの元気溢れる姿を見て、青春時代の思い出話に花が咲いたようです。

東海地区の玉翠会会員は、愛知・岐阜・三重の東海三県で約四三〇名が在住されています。準備会を含めて過去三回の総会で毎回新しい顔ぶれも増え、これまで延べ約九十名の仲間が参加しており、少しずつ仲間の輪が広がってきているという印象をもっています。第二回総会において、他支

参加人数は多くないもの(今年ももっと多くしたい)、和気藹々とした懇親会ですので、岡山県内在住の会員をご存知の方は、是非の出席をお勧めいただければと思います。

玉翠会のみなさまの益々のご発展をお祈り申し上げます。

では日本で一番元氣な街として脚光を浴びています。名古屋駅前には数年前から高層ビルが立ち並び、グルメ本には「名古屋めし(ひつまぶし、味噌カツ、あんかけスパゲッティなど)」が紹介されるなど、一昔前には考えられないほどメジャーな街になってきています。会員の皆様も是非一度名古屋に立ち寄ってみては如何でしょうか。

最後になりましたが、玉翠会の今後ますますのご発展と、会員皆様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

高橋正樹(昭和52年卒)

げますとともに、今後とも岡山玉翠会をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

多田讓治(昭和44年卒)

徳島

昭和四十九年に徳島大学に入学して以来、ほとんどを徳島で過ごしています。

高松高校の方々、東京・京都・大阪・岡山などJRの上りの方向に関心が向いている人が多いようですので、隣県徳島の紹介をしたいと思えます。

穏やかな瀬戸内海となどらかな讃岐山脈の香川と異なり、徳島の南は荒波の太平洋と険しい四国山脈があり真ん中を吉野川が流れます。このため香川より自然に多様性があります。私の趣味であるカヌーも、吉野川下流の静水面で楽しむカナディアンカヌーから、上流の激流の激流でのカヌーやラフティング(ゴムボートでの激流下り)や、海でのシーカヤックと多様な楽しみ方ができます。私の自宅は吉野川の北岸にありますが、家の前の水路からカヌーで、川幅1kmの吉野川を漕ぎ渡り、街中の水路に入り城跡を

徳島も良い所ですよ

廻り県庁の前のヨットハーバー(通称「ケンチョピア」)に行くことができます。お手軽には、城跡など中心部の水路を廻る双胴船の無料ツアー(NPO新町川を守る会が休日に運行)も体験できます。毎日通勤で1km強ある吉野川橋を渡るときや、堤防上の道路を走るときに広々とした吉野川に癒されます。香川ではなかなか味わえない感覚です。

徳島大学の紹介も少しさせていただきます。香川大学のような文系学部がないのですが、医療系栄養保健の医療系学部と工学部と総合科学部があります。香川ではあまり知られていませんが、国内の全ての大学の中で、研究費獲得や論文数などの大学評価の各種指標で二十位前後の位置を占め、旧帝大や有名私立大の次に群に属する比較的Activityの高い大学であり、産学連携で企業か

らの評価も高いと紹介されます。高松高校の進学指導でも、都会ばかりに目を向けず、隣の徳島にも国際的な研究や仕事に取り組み人材をどんどん送って欲しいと話しています。

徳島県には四百五十名前後の高卒生が在住しており、徳島玉翠会として年一回の会誌発行と総会・懇親会の開催を行っています。二〇〇八年一月の総会には、約五十名の参加があり、戦争中に卒業した大先輩を含めて異世代&異業種の交流を楽しみました。

入学や就職・転勤で徳

島に住むことがあれば、是非ご連絡ください。お互い何らかの力になれると存じます。

寺嶋吉保(昭和48年卒)
(徳島玉翠会事務局長、徳島大学医療教育開発センター)

島に住むことがあれば、是非ご連絡ください。お互い何らかの力になれると存じます。

島に住むことがあれば、是非ご連絡ください。お互い何らかの力になれると存じます。

川が流れます。このため香川より自然に多様性があります。私の趣味であるカヌーも、吉野川下流の静水面で楽しむカナディアンカヌーから、上流の激流の激流でのカヌーやラフティング(ゴムボートでの激流下り)や、海でのシーカヤックと多様な楽しみ方ができます。私の自宅は吉野川の北岸にありますが、家の前の水路からカヌーで、川幅1kmの吉野川を漕ぎ渡り、街中の水路に入り城跡を

廻り県庁の前のヨットハーバー(通称「ケンチョピア」)に行くことができます。お手軽には、城跡など中心部の水路を廻る双胴船の無料ツアー(NPO新町川を守る会が休日に運行)も体験できます。毎日通勤で1km強ある吉野川橋を渡るときや、堤防上の道路を走るときに広々とした吉野川に癒されます。香川ではなかなか味わえない感覚です。

徳島大学の紹介も少しさせていただきます。香川大学のような文系学部がないのですが、医療系栄養保健の医療系学部と工学部と総合科学部があります。香川ではあまり知られていませんが、国内の全ての大学の中で、研究費獲得や論文数などの大学評価の各種指標で二十位前後の位置を占め、旧帝大や有名私立大の次に群に属する比較的Activityの高い大学であり、産学連携で企業か

らの評価も高いと紹介されます。高松高校の進学指導でも、都会ばかりに目を向けず、隣の徳島にも国際的な研究や仕事に取り組み人材をどんどん送って欲しいと話しています。

徳島県には四百五十名前後の高卒生が在住しており、徳島玉翠会として年一回の会誌発行と総会・懇親会の開催を行っています。二〇〇八年一月の総会には、約五十名の参加があり、戦争中に卒業した大先輩を含めて異世代&異業種の交流を楽しみました。

入学や就職・転勤で徳

島に住むことがあれば、是非ご連絡ください。お互い何らかの力になれると存じます。

島に住むことがあれば、是非ご連絡ください。お互い何らかの力になれると存じます。

島に住むことがあれば、是非ご連絡ください。お互い何らかの力になれると存じます。



▲東海玉翠会第二回総会 2008年5月10日(土)

▶吉野川から見た眉山

陸上女子初のIH制覇

(インターハイ)

二〇〇〇M優勝

稲田知子

平成十九年度、佐賀県で行われた全国高校総合体育大会(IH)陸上競技女子二〇〇Mにおいて、本校三年生稲田知子さんが優勝しました。一一〇年を超える高松高校の歴史の中でも、女子では初の快挙であり、県勢でも三十六年ぶり。県内の報道機関十七社の記者が所属する「高松運動記者クラブ」から、「香川スポーツ賞」を受賞するという栄誉も与えられました。

それは稲田さんには全国大会で活躍するような実績はなく、当の本人が一番驚いていた様子。しかし、稲田さんの成長を一年時から見守っていた陸上部顧問の松原先生は、違う見方をしていました。

松原先生の言葉

入学時はそれほど注目されていない選手でしたが、ランニング時、足の接地スピードは天性のものがありました。一・二年時は積極的に多種目にチャレンジ、大きな怪我もなく練習できた事が良かったと思います。三年

四国新聞 平成 19 年 8 月 6 日付



時は県総体、四国大会と調子が上がって行きました。出発前のタイムトライアルでは驚くようなタイムが出て「もしかしたら」と思いました。試合当日は予選、準決勝と徐々に調子を上げて、決勝では最高のレースで優勝、彼女の集中力の素晴らしさに驚かされました。

また、監督の渡辺先生は、決勝を走る稲田さんの姿を「一人だけ風を切り裂くように走っていた」と評していました。

以下、本校新聞作成委員会による、本人へのインタビューを掲載します。

Q いつから陸上競技を始めたか?

A 中学校からです

Q 始めた理由は?

A 幼い頃から走ることが好きで、得意だったので、中学校に入ったら陸上をしようと思っていたからです。球技が苦手という

Q 高校に入ってから、勉強との両立は?

A 正直に言うと、塾に頼りきりでした。一年の時は、テスト期間のみ必死にあがくと感じたので、二年の後半からは受験勉強を始めたので、

部活のあと毎日塾で自習していました。

Q 競技の際、気を付けてきたことは?

A 私はかなりの「あがり症」なので、他の人に勝つことにこだわり過ぎて、力むことがないように心懸けていました。

Q インターハイで優勝した秘訣は?

A いまだによく分からないんです。四百を棄権して二百に懸けていたことで、一番万全な状態だった、というのもあるとは思うんですけど…あとは「開きなおり」ですかね。

Q 香川スポーツ賞受賞の感想は?

A 高松生活の締めくくり、このような素晴らしい賞をいただくことができて嬉しかったです。今まで支えてくださった方々に感謝したいと改めて思いました。

Q 高校卒業後は陸上とどう関わっていくのか?

A まだ未定なんです。元々陸上は高校まで、と思っ

ていました。でも今は、競走部には入らないかもしれないけど、何らかの形で続けていきたい、と思っています。

Q 陸上をしている、またはスポーツをしている後輩達に一言。

A 自分の可能性を信じて頑張ってください。嫌だとか面倒だ、と思うこともたまにあるかもしれませんが、最後にはやっていて良かった、と思うと思います。勉強との両立は大変だと思いますが、悔いの残らない充実した学校生活を送ってください。

甲子園にチャレンジ

山口・宇部商を迎え交流戦

高松高校野球部の創部一〇周年を記念し、二〇〇五年春、第七十七回選抜高校野球大会に出場した際の対戦相手でもある強豪校・山口県立宇部商業高校野球部を招いて交流試合が開催されました。「チャレンジ甲子園」と銘打った交流戦は、高松市生島町のサーパススタジアムを会場に、

県内から高松商業高校も参加し三校で三試合を行いました。

第一試合の宇部商―高松戦は、宇部商が三回に打者一巡の猛攻で六点を奪い、9―5で勝利。高松は四回に3点を返しましたが及ばませんでした。

第三試合の高松商―高松戦は、暑さに疲れの見え

る高松が14―3で高松商に敗れました。

2005年春の再来 全員野球で 県秋季大会準優勝

平成十九年度香川県秋季野球大会において、高松高校野球部が準優勝の快挙を成し遂げました。特待生問題が尾を引く中、四強に入ったのは私学三校、公立高校では唯一。他の三校と比べてもチームは小粒で見劣りがしました。しかし、失策を少なく守り勝つ野球、情熱的かつ勝負所をおさえた采配によって一戦一戦を勝ち抜き、決勝に進出しました。決勝の対戦相手は、初優勝を狙う寒川。大会前から優勝候補筆頭と下馬評の高いチーム。決勝では先制したものの、先発の中尾投手に疲れも見られ、中盤に逆転を許しました。八・九回に得点し粘りを見せましたが、最後は地力の差で準優勝に終わりました。

大会前の練習試合では失策から自滅する負けパターンが多くありました。大会前、甲子園で再び、「高松野球」が見られるに違いありません。



と期待を込めたエールがありました。また、高松高校野球部OB会長の松下勝彦さんは、「後輩たちが頑張る姿は頼もしい。今回のような試合が県内の高校野球のレベルアップにつながるべし」と満足そうに語っていました。

宇部商・中富力監督からは、「ボールを追いかけ



定時制だより

ご挨拶

教頭 清谷 守之
 平成二十年度は、四月八日に新入生七名を迎え、編入生と合わせて生徒四十二名(男子十八名、女子二十四名)、職員六名でスタートしました。

を基本方針に掲げ、一人ひとりの個性や実態を尊重した、全人教育を進めています。授業では、内容を精選し、基礎・基本を大切にすることに努めています。また、昨年度に引き続き、授業を公開にしたり、生徒からの授業評価等を参考に、毎日

の授業内容に改善を加え、「わかりやすい授業」の実践に積極的に取り組んでいます。来年度の入学より、県下の定時制普通科に単位制が導入されます。生徒たちにとって最大限メリッ

トになるよう現在準備中です。昨年度、軟式野球部、男子バスケットボール部、男女バドミントン部が県予選に出場しましたが、どの部も全国大会出場を果たすことが出来ませんでした。今年はその雪辱に燃えています。以下、昨年度の学校行事を紹介いたします。

伝統行事観月句会

昨秋も開催

十月三日(水)二限終了後、運動場で、職員、生徒および三名の保護者が、短冊と筆ペンを手にして見えない月に向かって二句ひねり、玉翠会館和室に移動。濱松先生による優秀作品十

人生さる(二年 宮崎時・安元 大輔先生の合作)月見えぬ 空にはきれいな虫の声(二年 植村ちひろ)虫の音や 天空の月 ただ静か(坂東洋子 保護者) 十月の ささやく秋風 類撫でる(二年 西川修博)



観月句会の様子

遠足

「ニューレオマワールド」へ



ニューレオマワールドの入り口

三年前の台風で被害を受けたアニマルパークも、ほとんど修復されていたけれど、雨がすべてを台無しにしたようだ。カフェやレストランも休業店が多く、ホテルにも人の気配は全くなかった。それでも、今回の遠足が、高校生活の思い出のひとつとして一人ひとりの胸の奥にずっと残ってくれることを願っています。

決定 新生徒会長

三年生の西川修博くんが



新生徒会長の西川修博くん

五月十九日、高松商業高校で行われ、総勢十一名が出場しました。男子団体バドミントンは高松商業丸亀城内野球場で、定通軟式野球大会県予選が開かれ、選手十名が参加しました。全力を尽くし奮闘しましたが、準決勝で昨年と同じく工芸とあたり、無念のコールド負けを喫しました。

恒例の宿泊研修

「県立屋島少年自然の家」

(5月2日～3日)

一年生十名が参加。一日目の昼は「自然の家」の浜辺で潮干狩りを楽しみました。夜はビデオによる高松の歴史の研修や校歌の練習。その後、体育館で卓球など、レクリエーションを行いました。翌日、野外炊飯を終え、タクシーで無事帰路につきました。

全定通合同

高松高校文化祭開催

九月八日(土)、九日(日)の両日、第五十七回高松高校文化祭が盛大に開催され、定時制としては平成十四年に二十七年ぶりに参加して以来六回目を迎えました。

卒業式

三月六日

春とはいえまだなお寒気。残る三月六日(木)、午前九時四十分より本校体育館において、全・定・通合同の卒業証書授与式が厳かに行われました。

祝御卒業

(男子五名、女子三名)

三月六日(木)晴、四年生八名が、晴れて卒業証書授与式に臨みました。HR教室で保護者や教員の見守るなか、念願の卒業証書を一人一人担任から授与され、その後、正門前で集合写真を撮りました。

通信制だより

定通総体

六月二十二日に開催された定通総体では雨の降りしきる中、各競技で熱戦が繰り広げられました。本校通信制も陸上競技、バドミントン、卓球に参加して盛んな声援の下、健闘しました。結果として、陸上競技で二名の全国大会出場を勝ち取りました。

生活体験発表会

九月二日

九月二日、生活体験発表会が本校内生活体験発表会が開かれました。

バドミントン部大躍進

女子団体準優勝

六月二十四日(日)、香川県定時制通信制総合体育大会が開催され、男子バスケットボール部、男女バドミントン部が出場しました。六名からなるバスケットボール部は、準決勝で三木高校に十三対二十八で敗れました。

恒例の予餞会盛大に開催

平成二十年二月十五日

(金)、多目的教室で、西川新生徒会長の挨拶から予餞会が開始。勉強机を並べて作ったアイブルを囲み、学年を越えて楽しく語り合う場をもつたあと、

新歓行事

五月二十五日

五月二十五日に行われた「ついで」は生徒会を中心となつて企画し、通画し、通信制に新しく入ってきた仲間を歓迎する最初の学校行事です。体育館で、午前中はソフトバレーとドッジボールとに汗を流し、午後は講演会と班別ミーティングを行いました。講演の演題は「頭がよくなる学習のコツ、食事のコツ」でした。みんな熱心に聞き入りました。

遠足

十月二十八日

さわやかな秋空の下、通信制の生徒や職員など約五十名で徳島県の大塚国際美術館と鳴門公園に遠足に行きました。バスを利用して九時に学校を出発。約一時間半で大塚国際美術館に着きました。大塚国際美術館は古代から現代までの世界中の美術品の陶板を作成している、「モナリザ」や「ゲルニカ」など、教科書で見ただけのものを目にするのが大得意でした。バスで移動した鳴門公園ではちょうど一時半の大潮の時間にあたり、みごとな渦潮をバックに記念撮影をしま

合同文化祭

九月八日・九日

二日間、にわたり、文化祭が開催され、「風流人士」のテーマで教室展示を行いました。八月から生徒会役員や文化祭実行委員会を中心となり、飾り棚を作成しました。また今年も研究発表の出品も多く生徒会もグローバル化に対応した「貧困」をテーマにした発表、さらに外部の人にもわかりやすいビジュアルな通信制紹介をおこないました。絵画、書道、手芸、生け花なども例年のようにすばらしい作品がたくさん集まり、通信制の日頃からの風流人士ぶりを感ぜさせる文化祭でした。教室展示部門では最優秀賞を獲得しました。

体育祭

九月二十四日

残暑がまだまだ厳しい九月二十三日、第33回体育祭が本校体育館で行われ、八十名近くの生徒が参加して熱戦が繰り広げられました。

生活体験発表会

九月二日

九月二日、生活体験発表会が本校内生活体験発表会が開かれました。

遠足

十月二十八日

さわやかな秋空の下、通信制の生徒や職員など約五十名で徳島県の大塚国際美術館と鳴門公園に遠足に行きました。バスを利用して九時に学校を出発。約一時間半で大塚国際美術館に着きました。大塚国際美術館は古代から現代までの世界中の美術品の陶板を作成している、「モナリザ」や「ゲルニカ」など、教科書で見ただけのものを目にするのが大得意でした。バスで移動した鳴門公園ではちょうど一時半の大潮の時間にあたり、みごとな渦潮をバックに記念撮影をしま

通信制だより

通信制だより

平成20年度 大学合格者数

1. 国・公・私立大別合格者数 (平成 20 年 4 月 6 日現在)

学 校 名	人 数	学 校 名	人 数	学 校 名	人 数
北 大	6	高 崎 大	1	立 教 大	16
東 大	2	首 都 大	1	早 稲 大	62
筑 大	6	横 濱 大	2	麻 布 大	1
千 大	2	金 沢 大	1	神 奈 川 大	2
東 大	18	名 古 屋 大	2	リ 女 子 大	1
東 大	2	京 都 府 大	1	南 京 大	2
京 大	1	京 都 府 大	2	都 女 子 大	2
東 大	6	京 都 府 大	1	京 都 大	10
京 大	1	大 阪 市 大	5	同 志 社 大	80
東 大	1	大 阪 市 大	9	同 志 社 女 子 大	7
東 大	4	兵 庫 県 立 大	4	立 命 館 大	85
お 一 横 山 信 静 三 滋 京 阪 大 (20 年 秋 入 学)	7	立 命 館 大	1	立 命 館 大	2
大 神 奈 良 女 子 大	1	合 計	31	大 阪 工 業 大	3
鳥 取 山 島 大	17	私 立 大	2	大 阪 大	13
岡 廣 徳 鳴 門 香 愛 高 九 福 琉 合	10	大 学	11	大 阪 大	33
	1	大 学	3	大 阪 大	4
	4	大 学	11	大 阪 大	50
	7	大 学	3	大 阪 大	3
	1	大 学	41	大 阪 大	6
	1	大 学	4	大 阪 大	9
	1	大 学	2	大 阪 大	3
	1	大 学	10	大 阪 大	1
	1	大 学	21	大 阪 大	1
	1	大 学	15	大 阪 大	1
	1	大 学	3	大 阪 大	33
	1	大 学	10	大 阪 大	1
	1	大 学	2	大 阪 大	1
	1	大 学	20	大 阪 大	1
	1	大 学	6	大 阪 大	1
	1	大 学	1	大 阪 大	3
	1	大 学	7	大 阪 大	3
	1	大 学	18	大 阪 大	3
	199	大 学	623	大 阪 大	1
		大 学	1	大 阪 大	1
		大 学	6	大 阪 大	1
		大 学	1	大 阪 大	1
		大 学	7	大 阪 大	1
		大 学	18	大 阪 大	3

2. 国・公・私立大学学部別進学率 (%)

学 部	文 外 語 社 会	法 政 治	経 済 商	理	工	農 林 水 産	医 歯	薬	生 活 科 学	体 育	芸 術	教 育	そ の 他	合 計
	22	9	16	3	11	6	14	8	4	0	1	5	1	100

投稿募集のお知らせ

玉翠会報では次のようなコーナーを設けたいと考えております。

I 「卒業写真」・・・卒業写真とともに懐かしい高校時代を振り返り、その思い出、エピソードなどを綴っていただくコーナーです。写真は集合写真に限らず、どのような写真でも結構です。世代を越えて、会員の皆様方が高松高校の歴史に触れられるような内容にできればと考えています。

II 「文芸欄」・・・会員の皆様方からお寄せいただいた作品を紹介させていただくコーナーです。具体的な内容については未定ですが、随筆、詩、短歌、俳句など、ジャンルは問いません。

また、「あの先生は今・・・」「ただいま活躍中！」のコーナーに掲載する方のリクエストもお待ちしております。その他お気づきの点などございましたらお聞かせいただけたらと思います。

宛先は「玉翠会事務局」まで、郵送又は FAX、電子メールでお願いいたします。

香川県立高松高等学校玉翠会事務局

〒760-0017 高松市番町 3 丁目 1 番 1 号
 電話 (087) 831-7251(代) FAX (087) 831-0010
 mail:gyokusui<takakou@mail.netwave.or.jp>

新年度(平成20年)会費を受けつけております

年会費 1口 1,000円

同封の「玉翠会費納入用紙」をご利用下さい。

玉翠会費納入にご協力下さい

多数の会員の皆様より会費の納入をいただいております。厚くお礼を申し上げます。あらためて申すまでもなく会費は玉翠会の運営上貴重な財源であります。財源の安定が急務となっておりますので、会員の皆様方には会費の納入について格別のご協力をお願い致します。また代議員、支部役員、職場の幹事の方々のご援助により納入額の増加に努めたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い致します。

二〇〇七年十一月二十七日、第二回玉翠グローバルアカデミー、先輩講演会が体育館にて催された。

テーマは「人間中心の情報社会の建設をめざして」も、もう一度高校生に戻れたら」で、ゲストスピーカーはトヨタ自動車顧問・トヨタIT開発センター最高顧問の内海善雄氏であった。



先輩講演会 第二回 GGA 「人間中心の情報社会の建設をめざして」

前国際電気通信連合事務総局長 内海善雄氏

内海氏は昭和三十六年に本校を卒業、東京大学に進学、法学部卒業後すぐに株式会社東芝に入社し、翌年に郵政省に入省。一九九九年からは日本人で初めて国際電気通信連合(ITU)の事務総局長となった。

ITUでは、IP電話の普及促進や国連世界情報社会サミットに尽力。その当時のことを、本部のあるブリュッセルや各国首脳の写真などを提示して説明してくれた。ブリュッセルの美しい町並や各国首脳との会話を懐かしむように語っていた。

講演の最後に「大学受験で一生懸命勉強したことは大変良かった。そのとき勉強したことが、後

に大変役立つので嫌がらずに頑張ってください。それと、苦手を克服するのもよいが得意な分野をどんどん伸ばすのがよい。」と生徒達に強いメッセージを送ってくれた。

講演終了後、校長室で行われたインタビューでは、主に高校時代の話やこれからの情報社会についての話があった。「情報を利用することで貧しさから脱却することができ。だからこそ、貧しい国々が情報社会へと進んでいく。私たちが努力してきた。これからは、自動翻訳機に大変期待している。」と熱く情報社会の今後について語っていた。

また、「読みづらい言語はいけない言語、読みやすい言語がよい言語」と独自の見解を示し、英語の教科書の代わりに内海氏が作成された小冊子を使うよう、しきりに校長先生に話していた。

昨年度のGGAは、他に第一回が十月四日に、ニュースキャスターの橋谷能理子氏(昭和五十五年卒)による「ニュースの舞台裏」、第三回が一月十二日に、東京大学医学部教授の國土典宏氏(昭和五十年卒)による「外科医の考えることー安全で正確な手術をめざしてー」の二つの講演があった。

昨年度のゲストスピーカーは、情報報道、医療という、生徒にとって身近な分野を、しかしなかなか直接には触れることのできないグローバルな場所、あるいは現代社会の最前線や学問的技術的に先端のところ、それぞれの仕事に携わっている方ばかりであった。

十九年度 玉翠会の援助で生徒の教育環境が、より充実しました。

- 学校助成金より
- 体育館緞帳修繕工事代 (1,706,250円)
 体育館落成から 20 年が経とうとする一昨年、緞帳の巻き上げ時に異音が生じ、設置業者に調査を依頼すると、「巻き上げ機に老朽化劣化が著しく、故障による事故の可能性があり、事故が発生した場合は緞帳自体が重量物であるため重大な事故につながる」との判断であった。文化祭等生徒が事故に関わると危険であり、設置業者に修繕してもらった。今後も定期的な点検・メンテナンスが必要である。
 - AED購入一部補助(約 34 万円うち 155,391円)
 2 年前に県が一台ずつ整備した AED は、現在体育館体育教官室前に設置している。本校では生徒職員等の緊急事態に備えるため、2 台目を第 2 グランド(工学部北グラウンド)に設置しているが、昨今のニュースでも、いざというときに助かった例も身近なところで聞く。そこでもう一台、定時制通信制の皆さんがより使いやすいように、2 階定時制職員室前(通信制職員室にも近い)に本校 3 台目を設置した。なお、AED の使い方については職員には講習済みであり、AED から音声による指示もある。
 - 地上波デジタル受信システム (138,359円)
 視聴覚教育の一つとして、TV 受信設備を整備しているが、平成 23 年のアナログ放送終了を受け、デジタル受信システムを整備した。
 なお、平成 17 年、18 年の学校助成金にて薄型大型液晶ハイビジョンを 4 台揃えさせていただいており、DVD や VTR、TV など授業の中で活用させていただいている。
 - 甲子園出場記念教育基金より
 - トレーニング器具 (5,932,500円)
 現在のスポーツはウエイトトレーニング抜きには考えられない。それは高校生にもあてはまることで、高松高校からも正しいトレーニングによって全国的な選手が育っている。また、定期不定期にウエイトトレーニング場を使用している部活動も多く、一般生徒も昼休み等で利用している現状である。
 本校のウエイトトレーニング場は県内でも有数の施設であるが、平成 2 年年度に整備した器具が多く残っており、年数もかなり経っていたため安全を考え、新しい器具を購入した。
 - 親時計設備改修 (1,186,500円)
 平成 2 年に設置された校内親時計チャイムシステムは、老朽化によりチャイムが正常に鳴動しなかったり各操作ボタンやレバーのハード面で不良が発生していた。設備導入後 15 年を経過し、製造中止および修理対応不可機種になっていたため、重大な故障が発生した時に修理できず、交換まで長期間チャイムが使用できない状況になる可能性もあったため改修をした。
 - チャレンジング甲子園 (704,206円)
 4 年前の甲子園での対戦相手、山口県立宇部商業高等学校野球部をお招きし、高松商業高校にもおいでいただき、サーパススタジアムを 1 日借りて、本校との 3 校でそれぞれ 2 試合ずつ試合を持った。別掲にて報告があるので内容は別掲を参照。
 - 第 2 グランド防球ネット修繕 (199,500円)

